

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300375		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホーム サンシャインあいおい		
所在地	群馬県桐生市相生町4丁目33-4		
自己評価作成日	H31.1.30	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成31年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 毎日散歩をし、季節の移り変わりを感じ、転倒予防と、下肢筋力を低下させないようにしている。
 * 利用者様個々の持っている能力、出来る事を見極め、掃除、洗濯物たため、食事の準備、食器拭き等を行って頂き、役割を持ち生きがいになるようなケアを実践している。
 * 他施設との交流を行い、外出する機会を多くし、楽しい毎日が送れるようなケアを実践している。他施設との交流には疑似通貨を使つての行事を行ったり、春・夏・秋には合同イベントを行っている。
 * 医療面において、個々の主治医がいる為、体調が悪い時は受診の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する小規模多機能型居宅介護事業所が開設してから10年近く経ち、その存在が地域に根付いてきているなかで、同じ法人の事業所として「認知症カフェ」を行うなど、さらに地域との繋がりが強くなるよう積極的な取り組みを展開しており、事業所行事への参加を近隣に働きかけることを通して、地域との交流が深まるよう努めている。職員意見に関しては、事業所内だけでなく職員組合を通して運営や処遇に関しての要望を法人に伝えられ、また、「経費申請」という仕組みがあり、運営上職員が必要と思う物品などを購入できるようになっている。医療の面では、同じ法人が運営する訪問看護ステーションから毎週看護師が訪れ利用者全員の健康管理を行っており、変化があれば医師とも連携した対応ができる態勢となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を基本とし、利用者様、地域、ご家族との関わりを大切にして、実践に繋げている。玄関や事務所に掲示してあるので、目に付き振り返り意識する事が出来ている。	理念は、法人理念である「信頼・安心の介護」を基に職員で話し合って作成されており、職員は、理念を踏まえ、常に利用者に対して笑顔で接し、声かけの仕方や態度にも気をつけ、利用者の気持ちに寄り添ったケアに努めている。ミーティングや普段の会話を通して、理念に立ち返っての振り返りが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩時に、近所の方々と挨拶や、世間話をする事で、季節の花や野菜を頂いたりして、馴染みの関係を築いている。施設に併用して、地域交流室で認知症カフェを毎月実施している。	隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と共に「認知症カフェ」を実施し、カフェのチラシを職員が利用者と一緒に近所の家に配ったり、また、事業所のお月見会や運動会などの行事に参加してもらえよう近隣に働きかけたりなど、地域との交流が図れるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学で来所された時等、施設の様子を見て頂き、不明な点がある場合、専門的な知識のある職員が対応出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、隣の施設と合同で会議を行い、行事、外部評価、防火訓練等の議題を設けて相談し合っている。 ヒヤリハット・事故報告を行い、ご意見を伺ってサービス向上に活かしている。	地域の意見を出してもらえよう、構成員である町会長や民生委員とは日頃から密接な関係を築くよう努めている。会議では、行事の他、ヒヤリハット報告なども行い意見を聞き、事業所運営に活かすよう取り組んでいる。家族には、電話や面会時に伝えているが、参加は得られていない。	議事録を送ることなどにより家族に会議の内容を伝え、事業所運営に関心を持ってもらうことなどを通して、また、開催日程についても工夫するなど、なるべく多くの家族に参加してもらうための取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請書類の代行の際等、施設の現状を報告し、問題点を相談し、必要な助言、指導等を得て、市との連携を取っている。	介護保険関係の手続きの際には、日々の事業所運営について報告するとともに、不明な点などについて助言を受けることなどを通して、協力関係が築けるよう努めており、また、運営推進会議でも情報提供や助言などをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制する拘束、言葉での拘束をしないケアを実施している。 今まで拘束は行っていない。	ミーティングなどで、利用者に対して、制止をするような言葉かけ、無視するような態度を取っていないかなどを振り返っており、また、日々のケアでも必要があれば管理者が職員に個別に説明をし理解を促している。玄関は昼間は施錠していないため、フロアには職員が極力いるように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に利用者様の身体観察を行い、不審なあざ、傷があった場合、原因を突き止め虐待を見過ごさないよう努めている。勉強会に参加し、職員の自覚を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度等を学び、必要とする利用者様がいる場合には、説明会や利用検討の段取りを組む等、支援していけるようにしているが、今まで利用の人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書、運営規定の説明等を行い、疑問点等を確認し、理解して頂いてから、契約を行う。救急搬送時の対応についてや、蘇生の対応については、定期的に書面にて家族に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護保険等、制度の変更がある時は、お便りや、玄関に掲示して家族面会時等に解るようにしている。	家族には、面会の際などに話しかけ、職員の対応などについて聞いてみるなど、意見が出しやすいような配慮をしており、出された意見や要望は「申し送りノート」に記載し、職員間で共有するよう努めている。利用者や家族から意見や要望は聞いているが、それを受けての対応が十分でない面がある。	家族や利用者の要望について、具体的に事業所の運営や日々のケアに反映させるための取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員共有の申し送りノートを活用して、意見、提案等行っている。月1回の職員全体のミーティングの中でも、問題になる事等の提案する機会がある。 職員の組合があり、職員から意見、希望を聞き、法人代表と話し合う会議がある。	ミーティングでは職員が意見を出し合い、全員が納得できるよう話し合いが行われており、また、職員が必要と思う物品などの購入ができるよう「経費申請」という仕組みも整備されている。法人で職員組合が組織され、処遇や運営に関して意見や要望を出すことができるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でのQC活動があり、現場での実践を発表する機会を設け、職員の意欲向上に繋げている。 年に1回チャレンジシートがあり、個々の目標や目標達成度を確認して意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会等の案内は事務所に掲示してある。各施設に研修委員を置き、職員個々が参加出来る勉強会が毎月ある。 同法人内の他施設での勉強会への参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会や行事等で各部署の職員と交流する機会を設け、質の向上を目指している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思っている事を軽減出来るコミュニケーションを取り、信頼関係を深めるようにしている。言葉で上手く表現できない利用者様に対しては、行動と言動の意味を探る事で、信頼関係を深められるように努めている。本人様がどのような生活を希望しているか、把握するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族に施設を見学して頂き、希望や心配事を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の出来る事、出来ない事を、ご家族、ご本人からうかがい、必要なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人を人生の先輩として敬意を持って接し、個人を尊重し、今持っている出来る能力を活用し、困っている所を援助している。食事の準備、片付けや掃除等、教えて頂きながら一緒に行ない、援助している。感謝の言葉は、必ず伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、利用者様の様子を伝えたり、意見交換や、要望等伺い、共にご本人を支えられるよう支援している。ご家族と相談しやすい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用出来るよう支援している。 また、馴染みのご友人の面会の受け入れも、家族了解のもと受け入れている。	日々の会話で馴染みの人や場所などを把握し、職員間で共有している。知人の面会があれば居室やホールでお茶などを飲んでもらい、時には、他の利用者と一緒に体操をしてみたり、楽しい時間を過ごせるよう支援している。また、ドライブの際には、利用者が以前勤めていた職場などに寄るなどの配慮も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出、毎日の生活の中で、一緒に楽しむ機会を設けている。利用者様同士が関わりあえる関係作りに努めている。集団が苦手な利用者様に対しては、個別に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様には、利用者様と職員でお見舞いに行っている。 契約終了された方のご家族から紹介された入所相談があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様、ご家族とのコミュニケーションを取り、利用者様の思いを汲み取れるように、希望や意思の把握に努めている。利用者様の意見を伺い、職員で話し合っケアを行っている。	日常の会話で、「今日はどうする」などと話しかけ、利用者の気持ちを引き出すようにしており、そうしたなかで把握した意向は、ミーティングノートや申し送りノートに記載して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様ご本人、ご家族にお話を聞き、これまでの暮らしを把握する。 生活歴や馴染みの暮らし方をご本人との話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様ご本人、ご家族にお話を聞いたり、ケア記録、個人記録、スタッフ間の申し送りの中から、現状の把握に努めている。その時の利用者様の状況で、臨機応変に対応出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、現状に即したケアプランの作成をしている。 スタッフ間でケアプランの共有を行い、日々の生活やモニタリングに活かせるよう、ケアプランを個人記録と一緒に保管してある。	毎月モニタリングを行い、カンファレンスで話し合い計画案を作成している。家族からは面会の際などに意向を確認し、計画に反映させるよう努めている。また、介護日誌に介護計画を綴じ込み、計画のサービス内容を確認しながらケアの内容・対応を記載することができるよう工夫がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即した支援を行い、ケア表、個人記録に毎日記録を行い、申し送りや申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。 記録や実践状況をもとにモニタリング、見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化によっては、訪問看護、医療機関への受診、その時々ニーズに合ったサービスを選択して頂いている。 御主人が入院をした利用者様が一緒に、ご家族了解のもとお見舞いに行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルのボランティアで踊りや演奏を行って頂いている。社会資源を活かし、楽しめる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望のかかりつけ医の受入往診や、必要に応じ職員が受診介助を行っている。 必要に応じて電話やFAXで状態報告を行っている。	往診やかかりつけ医の受診の際には、事前に利用者の状態を電話やファックスで伝えており、また、週1回、訪問看護師が利用者全員の健康チェックを行い、変化があれば医師に伝えるなど連携がとれた支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様との関わりの中での情報、気づきを訪問看護師、その他専門職と共に報告、連絡、相談して、適切な受診が受けられるよう支援している。毎週火曜日に訪問看護の来所があり、利用者様全員のバイタル測定と様子を診てもらう。夜間急変があった場合にも協力してもらう体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に地域連携室があり、病院とご家族との連絡が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護及び、かかりつけ医、他医療機関との連携を取り、出来るだけご家族の希望に沿った支援が出来るようにしている。	入居時に、重度化や緊急時の対応についての意向を利用者、家族に確認しているが、これまでは看取りの事例はない。法人主催の研修会に参加をし、看取りについての職員間での理解が深まるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の勉強会に職員全員が参加し、初期対応の訓練を定期的の実施している。 緊急対応マニュアルがある。 AEDが設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災防火訓練を年2回実施している。 町会長をはじめ地域の方との協力体制を築いている。	年2回、うち1回は消防署立ち会いのもと、避難訓練を実施しており、町会長や隣接する家の人にも参加してもらっている。地域との相互協力ということで、町会長や民生委員とも話し合っており、災害時には地域の避難場所として事業所を提供することとしている。	利用者の安全確保、夜勤職員の不安軽減のためにも、夜間想定避難訓練に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報(個人ファイル)は人目のつかない所に保管してある。職員は、個人情報について、秘密保持を厳守している。利用者様の人格、尊厳を尊重したケアを実施している。利用者様は苗字で呼ぶ対応をしている。	職員は、利用者に対して「人生の先輩である」と思いケアにあたるよう努めており、利用者への声かけは、原則として名字に「さん」を付けて呼んでいる。トイレ誘導は、小さい声で他の利用者に気付かれないよう気を配り、入浴は一對一で介助にあたり、羞恥心に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の要望、希望を傾聴し、選択肢を広げ、自己決定が出来るよう支援している。 ご本人からの希望が聞けない時は、ご家族からの情報も取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、利用者様の今まで通りの生活を大切にしている。利用者様の希望する事を、ご本人のペースで行っている。 その日の利用者様の体調や気分に合わせて散歩、買い物に参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のこだわりを尊重し、本人が出来る範囲で今までの生活の中で大切にしてきた服装(その人らしさ)や季節に合った服装が出来るように支援している。馴染みの美容室の受け入れや、訪問理美容の受け入れも行っている。 身だしなみやお化粧等を行えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る範囲内で、食事の盛り付け、配膳、片付けを一緒に行ったり、週1回の手作り昼食を利用者様と一緒に作って、静かな音楽を掛け、利用者様と職員で会話を楽しみながら食事している。	ご飯は事業所で炊き、法人が運営する店から主菜、副菜などを届けてもらい提供しており、月1回の法人の給食会議で、利用者の反応や要望を伝え反映させている。週1回は手作りの日として、昼食は事業所で利用者と話し合いながら一緒に調理し、楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の体調、希望に合わせ、食事の提供をしている。好きなだけお茶が飲めるよう、常にポットはテーブルの所に置いてある。水分摂取が少ない利用者様には、好きな物を提供している。 法人内の管理栄養士が半年に1回栄養スクリーニングを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の口腔ケア指導を歯科衛生士より受け、問題がある時は、相談している。必要な時は、歯科受診をしている。毎食後、口腔ケアが出来るようセッティングか、声掛け、仕上げ磨きの介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア表に排泄の有無を記入し、スタッフは個々の排泄パターンを把握し、時間でトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。 日中は、利用者様全員が、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄表により利用者ごとの排泄パターンを把握し、職員間で共有しながらトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。また、家族の負担も考慮し、なるべくハビリパンツやパットの交換が少なくなるよう意識してケアにあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩やレクで身体を動かしたり、数日排便が無い利用者様には、腹部マッサージをしたり、寒天等を使用したおやつや繊維質の多い食べ物を提供している。出来るだけ自然排便が出来るよう、個々に合わせて予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせた入浴を支援している。 無理な声掛けは行っていない。マンツーマンで、一人一人ゆったりと入浴出来るよう対応している。	週に2回は入浴できるようにしており、介助は一对一で行い、職員は会話をしながら楽しく入浴できるよう支援している。入浴を拒否する場合には、声かけの仕方を変えたり、別の職員が声かけを行うなど、工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、一人一人の生活パターンに合わせ、個別に休息している。不安の訴えがある時は、温かい飲み物を提供したりして、安心して眠れるように支援している。 馴染みの寝具を利用している利用者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の用法をお薬手帳や薬の説明を参考にし、個々の内服時間に合わせ、ケアしている。 状況により、追加された内服薬に関しては、内服後の経過報告を行い、症状に合った服薬支援に努めている。主治医や薬剤師の指示のもと、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に、気分転換を兼ねて近所のスーパーに嗜好品等を買に行ったり、個々の楽しみ事の支援をしている。花や植木が好きな利用者様と、花を買に行き、プランターに植えたり、ドライブに行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩を実施している。個別の買い物支援を行っている。 季節の花見を心掛け、毎月外出している。ご家族との外出を楽しみにしている利用者様もいる。	毎日の散歩や週1回のドライブ、季節ごとの花見や地域行事にも積極的に出かけるなど、なるべく利用者が外に出て過ごせるよう支援している。また、家族との外出の際には、身支度等の準備を細かなところまで配慮して手伝うなどの対応に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、個人でお金を持っている利用者様は、一緒に近くの店まで買い物に行き、ご本人の希望される物を購入する個別ケアを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で連絡したい利用者様は、個人の携帯を利用しているが、使用が分からない時は支援している。 入所時にご家族に確認をして、ご本人が希望される場合は電話を掛けたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室と廊下の温度差を無くしたり、居心地良く過ごせるように対応している。玄関は、季節の飾り付け等を行い、利用者様の作品を展示したりしている。	玄関には草花が置かれ、廊下やホールには利用者と職員が一緒に作成した折り鶴などが飾られている。ホールは採光、温度、湿度なども配慮されており、清掃も行き届き臭いを感じさせないなど、利用者がゆっくりと過ごしやすい環境が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席があるが、気の合った利用者様同士が座る事もある。個々に自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具の持ち込みを自由にし、ご本人が居心地の良い空間で過ごせるよう工夫している。 自宅で使用していた家具の持ち込みもある。 個々に過ごせる工夫をしている。	家具の持ち込みや配置、写真やカフェでの作品などの掲示は、利用者、家族と相談しながら行っており、居室入り口には、利用者が自分の部屋と分かりやすいよう職員手作りの花の折り紙を利用者ごとに色を変えて飾るなどの工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同スペースのホールを中心に、キッチンから食事を準備する音や匂いがしたり、家庭的な雰囲気を感じられる工夫をしている。 利用者様居室は、個々に解るような目印のある環境にしてある。		